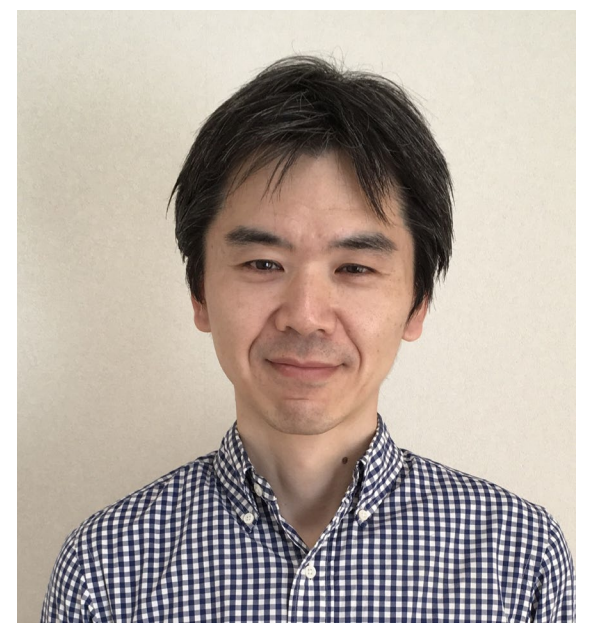




大久保研究室

Okubo Laboratory

Keywords: マクロ経済学、計量経済学、アセットプライシング、異時点間代替、モデル不確実性、リスク回避、曖昧さ回避



大久保正勝
Masakatsu Okubo

研究室の目標:

当研究室では、不確実性下の意思決定に関わる概念である「異時点間代替」「リスク回避」「モデル不確実性」「曖昧さ回避」などのモデル化やそれらのデータによる評価・検証を通じて、人々の消費・貯蓄選択、資産選択、リスク回避行動の決定要因やその結果として生じる様々なマクロ経済現象（政策効果を含む）に対する理解を深めることを目指しています。

マクロ経済モデルと不確実性:

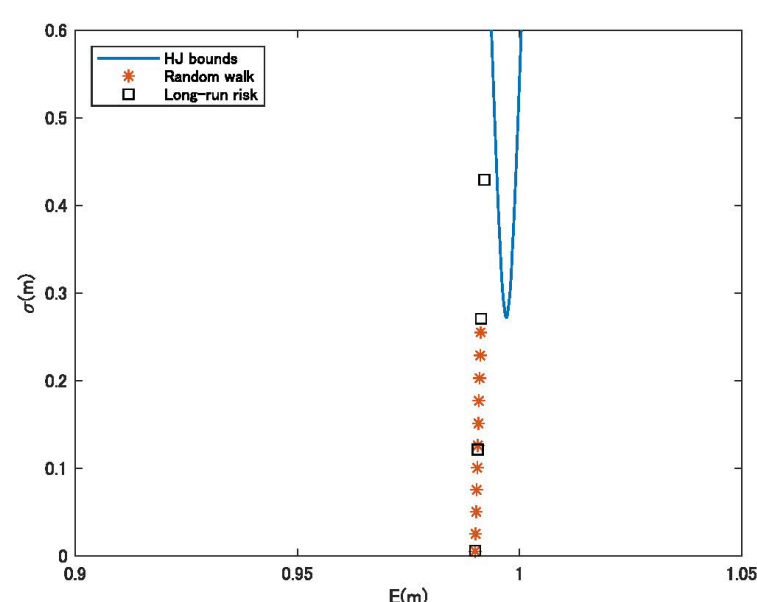
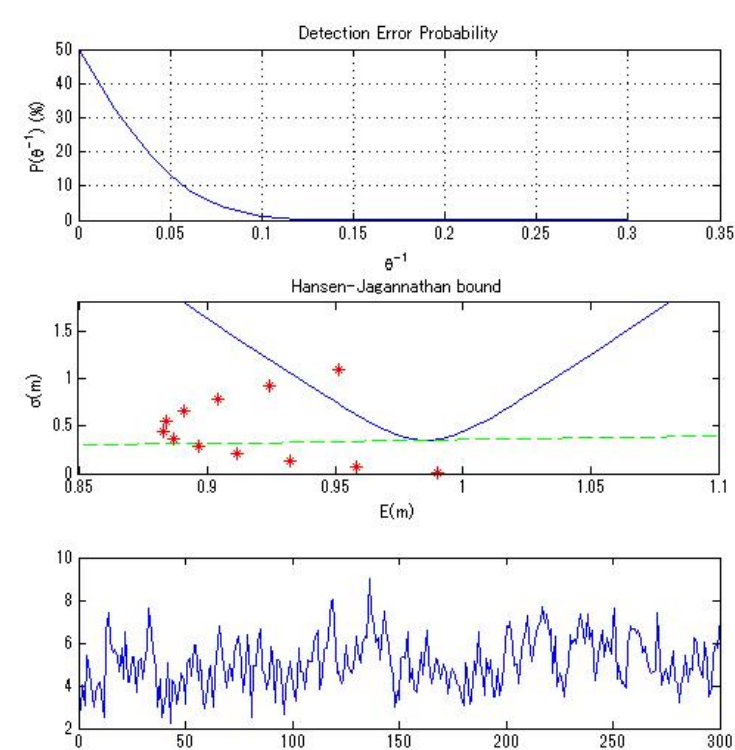
マクロ経済学の対象は一国経済であることから、集計量の時間変化が分析対象となります。通常、集計量の時間変化は代表的主体の時間を通じた選択としてモデル化されます。時間変化には将来が含まれるため、代表的主体による不確実性下の意思決定がモデルの重要な要素となります。テーマによっては異質主体から集計量を考えます。

モデル不確実性と曖昧さ回避:

従来のマクロ経済分析では、将来の不確実な事象は確率過程を仮定することでモデル化してきました。このことは、人々は不確実な事象の確率分布を知っていると仮定することを意味します。最近では、真の確率分布が正確には分からない（＝モデル不確実性がある）状況下で、人々がモデル不確実性を避けたい選好（＝曖昧さ回避）を持つとした新たな枠組みをもとに、様々な分析に取り組んでいます。

異時点間代替とリスク回避:

集計量の時間変化が生じることの標準的な見方は、人々は現在と将来に何をどれだけ消費するかを決定（＝異時点間代替）しているというものです。この決定には、人々のリスクに対する態度（＝リスク回避）が伴います。これらを表すパラメータを正しく推定するのは困難とされており、理論と実証の両面からこの問題に取り組んでいます。



メッセージ:

現代マクロ経済分析では、動的計画法、ロバスト制御などの数理的・工学的手法や統計的推論、数値解析などの統計的・定量的手法が使われます。経済学の中でも特に、社会工学と相性が良いと言えます。マクロ経済的な視点から社会経済問題の解決に取り組みたいと考える方を歓迎します。